



個人加盟地域労組学習交流会

会場いっぱいの80名が参加

個人加盟組合の重要性を再確認



首都圏の地域労組学習交流会が11月16日、エデュカス東京で、山梨、千葉、埼玉、神奈川、東京から会場いっぱいの80名が参加して行われました。

各地域では

はじめに実行委員会参加組合からは地域の個人加盟組織の現状・課題と活動の報告と教訓が話されました。

横浜北部地域ユニオンからは、地域労組は問題が解決すると脱退してしまうが、職場要求実現に向けた団交を断続的に行って組合への結集を強めている。

埼玉ユニオン・SUからは、個人の労働相談から、職場での声かけで、職場で仲間が増えると組合の定着につながっている。

新宿一般労組からは、次世代育成に向けて全労連わくわく講座テキストを使い「TOYAMA講座」を4年に渡り行い、若手組合を集めたフリートーキュニオン・カフェも開いている。

首都圏青年ユニオンからは、非正規春闘に23年から取組んでいるが、少人数の組織でも非正規春闘という枠組みで社会的な圧力を備えて、非正規労働者による賃上げを実現している。

コミュニティユニオン東京からは、課題は、役員の高齢化と次世代育成の遅れがまったくなし

の課題となっている。

労働組合のリーダーを

都留文科大学名誉教授の後藤道夫さんから問題提起がされた。

不安や怒りが高まるなかで、個人加盟労働組合が出番となっているが、役員の高齢化、世代交代、組合員の定着など課題が多いが、労働組合のリーダーをどうつくるかが最重要となっている。アメリカの労働組合運動の新しいリーダーを見れば、単に労働組合運動の知識を学ぶのではなく、広く政治や社会のあり方を学んでいく必要がある。労働組合の活動家になることは、政治参加より難しい課題だ、とお話しされました。

連帯挨拶は全労連の黒澤事務局長、東京地評の嶋岡組織局長、神奈川県労連の山田事務局長、埼玉県労連の黒田副議長、千葉県労連の矢澤事務局長、山梨県労の上間議長からされました。

会場からは、公務公共一般労組の原田さんは、地域の個人加盟労組が密接につながるネットワークをつくっていく必要がある。CU江東の中村さんは、ローカルユニオンは組織拡大のツールであり、すべての地域を網羅する組織にし、駆け込み寺ではなく労働者の居場所となるように学習・教育、共済活動に取り組む必要がある。首都圏青年ユニオン・シロ一分会の吉田さんは、ストライキを見た同僚がその場で労働組合に加入了。

《支部総会開かれる》

第15回定期総会

組織拡大に向けて、
総会2日前に一人増やす
品川支部

10月20日日曜日、10時半から品川労協の2階で、総選挙真っ最中で委任状が多く、少ない出席のなか開催しました。池野委員長の挨拶の後、本部の白滝書記長から、今日の



情勢や労働相談の実態など詳しく挨拶を受けました。

佐藤書記長より経過、決算などが報告、承認され、途中、白滝書記長に加入届をお渡しし、お土産としました。その後、運動方針と予算も提案されスムーズに質疑が行われ、全体の拍手で承認されました。

終了後、好きなお弁当を選び、昼食交流会を行いました。お互い久しぶりの人もあり、楽しく交流しました。役員は以下の通りです。

執行委員長	池野 隆
副委員長	高畠 稔
書記長	佐藤 盛雄
執行委員	船津 斎瀬 南 陳栄
	丹伊田 恵寿
会計監査	武田よね子

《活動報告総会》

バーベキューで交流 かつしか支部



11月10日(日)バーベキュー交流のつどいを水元公園で行われ15人の 参加で行われました。

当日は天気が悪そうでしたが何とか晴れて行われました本部から白滝書記長が参加され、拡大で一人の新会員も参加されました 各自

自己紹介をして飲んで食べて楽しい一日をすごしました。

第10回 はたらく女性の東京集会 だれもが安心して働き、 くらせる社会を実現しよう



11月11日（日）エディカス東京で、第10回はたらく女性の東京集会は開かれました。茨城大学教授の清山玲さんが「ジェンダーの視点から賃金・税・社会保障改革を考えよう」と題してお話しされました。誰もが幸せに生涯安心して暮らせる頼れる福祉国家の実現には、ジェンダー平等・女性の活躍を推進し、勤労の権利と納税の義務を果たせる改革が重要と話されました。

また、会場からは、様々な取り組みの発言があり、ユニオンちよだのAGCグリーンテックからの不当な間接差別を訴えたたたかいの報告には、大きな拍手がありました。

参加者は110人でした。

はたらく女性の東京集会に 参加して 大能清子（渋谷支部・協力組合員）

私はもう働く女性ではなく、「本業」は「東京『君が代』裁判」だから、集会の参加者として相応しくないと思いながら出かけた。でも、「『女性優遇策』が女性を社会を苦しめる!?」という副題の記念講演は、もうけモノ」だった。力のある人なら簡単に超えられる「年収の壁」を、かつて私の母は超えられなかった。父には

「高畠もとあきの展望」 第4回

★2024年はびっくりすることの連続でした。春はドジャースに移籍した大谷選手が結婚したと思ったら、通訳の水原一平から6億8千万円もつまみ食いされてしまったこと。

★シーズンでは50-50（54本墨打—59盗墨）という大記録を立て、本墨打王となりワールドシリーズで優勝してしまったこと。

★政治の世界では10月に総選挙がおこなわれ、長い間続いた自公政権が過半数をとれない結果になった事。

★もっとびっくりは自民党を長い間支えていた派閥がほぼ解散してしまったこと。

★昨年末に「しんぶん赤旗」という政党の新聞が自民党のパーティー券収入を各議員が政治資金収支報告書に記載しなかったということで、「裏金問題」が発覚したのが今回の選挙のはじまり。

★その結果あの強権を誇った「安倍派」の議員が多く落選し、形を成さなくなうこと。

★そして11月初めのアメリカの大統領選挙でトランプ氏が当選してしまったこと、接戦が伝えられながらふたを開けてみれば大差で「またトロ」となり、世界は戦々恐々となっていました。

★選挙後聞いてみると、民主党政権で格差が広がったこと、戦争をやめそうになかったことなどが民主党の敗因だそうです。

女が働くことへの理解がなく、父が難病に罹ると母はあっけなく自殺した。年収の壁は、ときに命の壁になる。

若い頃、組合の婦人部の先輩方にこの壁をなくした方がいいと言って、「家事労働を軽視している」とお叱りを受けた。それから40年程経つて、ようやく集会でこんな話が聞けた。

今、ガザには文字通りの壁があって、パレスチナの人々が殺され続けている。アフガニスタンの女性たちも分厚い壁に阻まれている。どんな壁もない方がいい。必要なら誰もが登れる緩やかなスロープをつくればいいのだ。

国連女性差別撤廃委員会（CEDAW）の 第9回日本報告審議 傍聴・ロビー活動に参加しました。 △東京女性会議議長 伊東弘子

「国連差別撤廃委員会（CEDAW）代表派遣カンパ」の取り組みに多くのみなさまからご協力いただきまして、この度ジュネーブの国連でCEDAW傍聴・ロビー活動に参加できたことに心から感謝しお礼を申し上げます。

30日に出された総括所見では、実質的平等を実現するための踏み込んだ勧告が多く出されました。例えば、日本のジェンダー平等の進捗は遅く世界に取り残されていること、女性比率の目標値は30%ではなく、パリテ（同数）であることが求められています。また、社会のすべての段階において、女性・男性・少女・少年を対象として家父長的態度や差別的ステレオタイプを削除するための積極的・持続的な包括的戦略を採用するよう求めています。

雇用については、男女賃金格差の解消につ



いて、正規雇用の機会の拡大、非正規雇用の待遇改善など具体的な改善を要請され具体的な勧告が出されました。

- 同一価値労働同一賃金の原則を効果的に実施し、男女間の賃金を縮小し、最終的に解消する。
- 定期的な労働検査の実施
- 非差別的で主観的でない職務分類と評価方法の適用
- 定期的な賃金調査の実施、大企業に対する男女賃金格差の開示義務の中堅・中小規模職場への拡大
- 男女賃金・年金格差の背景にある理由をよりよく理解し、適切な改善措置を講ずることを目的として、男女賃金格差データとともに説明書を公表するよう雇用主に奨励する

男女雇用機会均等法を改正し、妊娠、育児、外見上の偏見、都市/地方、年齢による差別など、間接差別の禁止事由をより幅広く考慮する。

勧告を実現させるため、引き続き運動をしていきましょう。

大きな、注目集めた選挙が3つあった。想定外あるいは想像以上の変化だった。衆院選は裏金問題で怒りが沸騰して少数与党に転落。米大統領選は物価高騰の不満が渦巻きハリス候補は飲み込まれ、兵庫県知事選は驚きの結果に■近年の選挙はSNSの効果が絶大といわれる。しかしウソ・デマが投票をゆがめたとしたら、民主主義は危うい。「知事のパワハラは無かった」「移民がペットを食べている」…、事実が否定され、荒唐無稽だが信じてしまう■SNSは一度閲覧すると類似情報が次々と流れ、累積され、それがトレンド入りして爆発的に拡散、前知事の街頭演説には数千人が集まる熱狂が生まれた■「共産党が国会議事堂に放火した」は、ナチスが放った最大級のデマ。それで政敵を排斥して独裁を敷いた。「天皇は現人神」と信じ込まれ、数千万の命が奪われた。当時は映画とラジオが駆り立てた。今はスマホ・PCに断片的・刺激的、瞬時に飛び込んでくる。便利な時代だが読み解く力が大切だ。